（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和５年４月１日

県立港北高等学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①新学習指導要領の主旨を踏まえ、生徒の特性等に応じた教育課程を編成し、適切に実施する。 ②社会の変化やニーズに対応し、生き抜くための資質・能力を養うため、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを推進する。 ③生徒会活動や学校行事等を充実させ、自主性・主体性・社会性を育成する。	①新学習指導要領による教育課程の定着をはかる。 ②「『探究的な学習』を取り入れた授業改善」をテーマとして、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを積極的に推進する。 ③コロナ禍を踏まえて、生徒会行事・学校行事をより生徒が主体的に活動できるよう支援する。	①3年次での選択科目が増えた新教育課程をふまえ、生徒が適切な科目選択により、進路実現に結びつけるため、説明会・資料の充実を図り、理解を図る。 ②授業力向上研修会(4回)、研究授業(1回)、授業互見週間(2回)を通し、『探究的な学習』を取り入れた授業に取り組み、組織的な授業改善を推進する。 ③生徒会本部との連携を密にし、生徒主体の行事が実施できるよう支援する。また、オンラインで活用したほうがより効果的な行事（生徒総会・生徒会役員選挙）はオンラインも併用して実施する。	①生徒が新学習指導要領に基づく教育課程の特長を理解しているか。教員に旧課程との変更点が理解されているか。 ②各教科の自己評価、生徒による授業評価、取組における教員の意識行動調査に改善が見られたか。 ③生徒会生徒や委員会の生徒を中心に行事が実施でき、自己肯定感を高めることができたか。					
2	生徒指導・支援	①生徒一人ひとりが安心・安全な学校生活を過ごせるよう、教育環境や支援体制の充実を図る。 ②部活動を通して、協調性・責任感・連帯感の涵養を図るとともに自発的な行動力を育成する。	①生徒理解を基本とした支援を実践し、生徒の基本的生活習慣の確立及び規範意識の醸成を目指す。 ②部活動活性化を図り、生徒主体の部活動運営ができるよう環境整備をする。	①生徒一人ひとりが基本的生活習慣や規範を意識し、心身共に安全で健康な学校生活を送るためのサポート体制を整備する。 ②部長会において、職員と部長との連携を密にし、各部活動との連携を図る。また、生徒の安全面・健康面に配慮し、休日部活動のありかたや部活動休養日についての考え方を職員・生徒で共有する。	①生徒が必要な支援を受けることにより、課題解決に至るケースが増加したか。 ②部活動を通して生徒の自己肯定感が高められたか。					

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①3年間を見通した体系的なキャリア教育を実践し、生徒の自己実現力を高める。 ②生徒の個性や多様な進路希望に適した進路支援体制の充実、拡充を図る。	①３年間の連動したキャリア教育によって、生徒が主体的にキャリアプランを構想し、実現する力を育成する。 ②生徒の個性や多様な進路希望に適した進路支援体制を充実させる。	①新学習指導要領における３年間の体系的なキャリア教育を構築する。校内模試等の効果的活用を進める。 ②進路情報の共有や研修会の実施により、進路支援の指導力を充実させる。	①キャリア教育の内容が進展したか。校内模試の前後の学習の計画が立てられたか。 ②生徒の多様な進路相談に対し、適切な指導ができたか。					
4	地域等との協働	①地域との連携・協働により、「開かれた学校づくり」を推進する。 ②保護者・地域への情報提供に努め、家庭・地域の支援体制を充実させる。	①学校行事や地域行事、地域防災等において、地域と連携した教育活動を実施する。 ②本校の教育活動について、学校ＨＰにより積極的に情報を発信する。特に、新たな特色として「総合的な探究の時間」の取組を発信する。	①近隣小中学校との行事や地域との防災訓練等に積極的に参加する。 ②閲覧しやすい学校ＨＰの構築に努め、時機を逃さず、早急に内容を更新する。また、生徒、保護者等の意見を取り入れ、構成や内容の精選を進める。	①地域との連携・協働を推進できたか。 ②閲覧しやすく、タイムリーな情報をＨＰに掲載することができたか。また、中学生の志願状況や保護者等に、学校ＨＰ改善の効果がみられたか。					
5	学校管理 学校運営	①学校運営協議会を活用しながら地域との連携・協働を推進し、地域とともに歩む学校づくりを推進する。 ②定期的に不祥事防止研修会を実施し、教職員の危機管理意識を高める。 ③生徒と向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。	①昨年度の学校運営協議において指摘された課題を学校運営に活かす。 ②不祥事ゼロプログラムの取組を継続し、不祥事防止に職員全体で取り組む。 ③業務の可視化、内容の精選を行い、生徒に十分な対応ができる学校づくりを目指すとともに、長時間労働を是正する。	①地域・ＰＴＡ・同窓会等との連携による生徒への支援体制作りの充実を図る。 ②不祥事防止に係る研修会を充実させ、職員全体の同僚性を高める。 ③業務の可視化により、業務内容を整理し、生徒主体の教育活動が十分に図れるように努めるとともに、「ノー残業デー」を推奨する。	①検証課題を改善し、より具体的な学校教育の活性化に結び付けることができたか。 ②事故・不祥事ゼロを達成できたか。 ③業務の見直しを具体的に進め、教育活動の活性化に結び付けることができたか。また、「ノー残業デー」を実施できたか。					